Volt 4P Max

Volt 4P Max ハードウェアマニュアル



本記事には、Universal Audio Volt 4P Maxのハードウェアコントロールと接続に関する詳細な操作手順が記載されています。

Volt 4P Max ハードウェアマニュアル
はじめに
Voltクイックスタート
Voltの使用
Volt 4P Max ハードウェアの説明
Voltを工場出荷時の設定にリセット
Volt 4P Maxの仕様
注意事項

はじめに

Volt 4P Maxは、4基のTone Shapingプリアンプ、鮮明な視覚的フィードバックを提供するスマートディスプレイ、スピーカー切り替え機能、およびMaxダイナミクス処理を備えた、フラッグシップのデスクトップUSBオーディオインターフェイスです。
これにより、ドラマー、バンド、プロデューサーがプロスタジオのフルサウンドで大規模なセッションを録音できる、充実した接続性を提供します。

伝説的なApolloインターフェイスと同じUniversal Audioのチームによって開発されたVolt Maxは、ボタンを押すだけで、すべてのチャンネルにスタジオ品質のマイクプリアンプのトーンとクラシックなコンプレッションをもたらします。さらに、サウンドを仕上げる際には、完璧に調整された受賞歴のあるUADプラグインスイートとLUNA DAWをご利用いただけます。

主な利点

- **4基のTone Shapingプリアンプ。**デモ音源ではなく、完成されたレコードのような豊かで本格的なキャラクターを得ることができます。

- **Max Processing**：ボーカル、ギター、ベース向けに調整されたクラシックなコンプレッサープリセットを使用して録音できます。
- **フル32ビットオーディオ**：伝説的なUniversal Audio / UAのクオリティにより、驚くほど詳細にパフォーマンスをモニターできます。
- **拡張I/O**：楽器やドラムによるフルバンドの録音、MIDI経由での外部ハードウェアの接続、ADAT経由での入力の追加が可能です。
- **スマートディスプレイ**：明るい視覚的なフィードバックにより、チャンネルの選択やレベルの設定をすばやく行えます。
- **Auto-Gainとクリッププロテクション**：信号のピークによってテイクが台無しになる心配はもうありません。
- **使いやすさ**：お気に入りの音楽アプリを使用して、すばやく接続して録音できます。
- **プレミアムUADソフトウェア**：プロが使用するものと同じEQ、コンプレッサー、シンセサイザー、ギターアンプに加え、受賞歴のあるLUNA DAWを入手できます。

機能

- プロフェッショナルな32ビット / 192 kHzオーディオ変換を備えた12イン / 6アウトのデスクトップUSBオーディオインターフェイス
- 60 dBのゲインと3つのハーモニックキャラクターモード（Warmth、Focus、Shine）を備えた4基のTone Shapingプリアンプにより、入力ソースでクラシックなアナログマイクプリアンプの豊かなサウンドを実現
- 最大4つのソースを同時にトラッキングできる4系統のマイク / ライン入力
- **Max Processing** — LA-2Aや1176などの名機をモデリングした、ボーカル、ギター、ベース向けの6つの音楽的なプリセットを備えたオンボードのリアルタイムコンプレッション
- ToneとMaxの組み合わせによる18種類以上のキャラクターコンビネーション（すべて完全にノイズフリー）
- フロントパネルに配置された2系統のHi-Zインストゥルメント入力および追加のライン出力
- 2組のモニター（MainおよびAlt）を切り替えるスピーカースイッチング
- スムーズなスタジオコミュニケーションを実現する内蔵トークバックマイク
- 最大8チャンネルのデジタル拡張用ADATまたはS/PDIFオプティカル入力、およびMIDI In / Out
- 周辺機器の接続や外部MIDIコントローラーへの電源供給が可能なオンボードUSBハブ
- ゲインリダクションメーターを含む、明るくひと目でわかる視覚的なフィードバックを提供するフルカラーのスマートディスプレイ
- 常に完璧な録音レベルを実現するAuto-Gainとクリッププロテクション
- モニタリングや共同作業に最適な2系統のスタジオ品質ヘッドフォン出力（1つの共有キューミックス付き）

- セッションのリコールや低レイテンシーのキューミックスを含む、UAD ConsoleアプリおよびLUNA DAWとの完全な統合
- ポッドキャスティング、ストリーミング、コンテンツ制作向けのループバック機能の内蔵
- コンデンサーマイク用の各チャンネルに独立した48Vファンタム電源
- Mac、Windows、iPad、およびiPhoneでの簡単なセットアップを可能にするUSBバスパワー駆動およびクラスコンプライアント対応*
- 長年の使用に耐えるように設計されたスタイリッシュで堅牢な構造

**Windowsシステムでは、UA Connectアプリで利用可能なASIOドライバーを使用します。バスパワー駆動の要件はモデルやデバイスによって異なります。Lightningデバイスへの接続には、Apple Lightning - USBカメラアダプタが必要です。*

Voltクイックスタート

使用を開始するには、Voltの登録、アップデート、バンドルソフトウェアおよびプラグインのインストールを管理するためのUniversal Audioアプリ、UA Connectをインストールしてください。初めてVoltを接続した際、新しいハードウェアのセットアップを支援するために、UA Connectにはオンボーディングチュートリアルが用意されています。

手動でセットアップを始める場合は、本セクションの指示とリファレンスに従ってください。

Voltのドキュメントについて

- ハードウェアのセットアップおよび操作手順については、本マニュアルを参照してください。
- ソフトウェアの設定および操作手順については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。
- UA ConnectでVoltを登録し、付属のソフトウェアを入手する方法については、「How to set up your Volt Interface」を参照してください。

システム要件

Voltのシステム要件については、こちらをご覧ください。

はじめに

セットアップを開始するには、以下の手順に従ってください。

ハードウェアの設置

1. Voltを平らな場所に置きます。
2. VoltのHOSTポートをコンピューターのUSB 2.0以上のポートに接続します。Voltには、USB-C - USB-Cケーブルが付属しています。

ソフトウェアのインストール

1. uaudio.com/volt/startからUA Connectアプリをダウンロードしてインストールします。
2. UA Connectを起動し、アプリ内の指示に従ってVoltハードウェアを登録し、セットアップします。
3. ファームウェアのアップデートが利用可能な場合は、インストールします。
4. UA ConnectからUAD Consoleアプリをダウンロードしてインストールします。

注意：Windowsシステムで最適なパフォーマンスを得るには、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールしてください。MacおよびiOS/iPadではドライバーは必要ありません。

Voltの使用方法

Voltの機能の使い方については、本セクションの概要を参照してください。詳細については、「ハードウェアの説明」セクションに記載されています。

Voltの接続

モニタースピーカー、ヘッドフォン、入力機器をVoltに接続します。詳細については、「Voltの接続について」を参照してください。

コントロールの概要

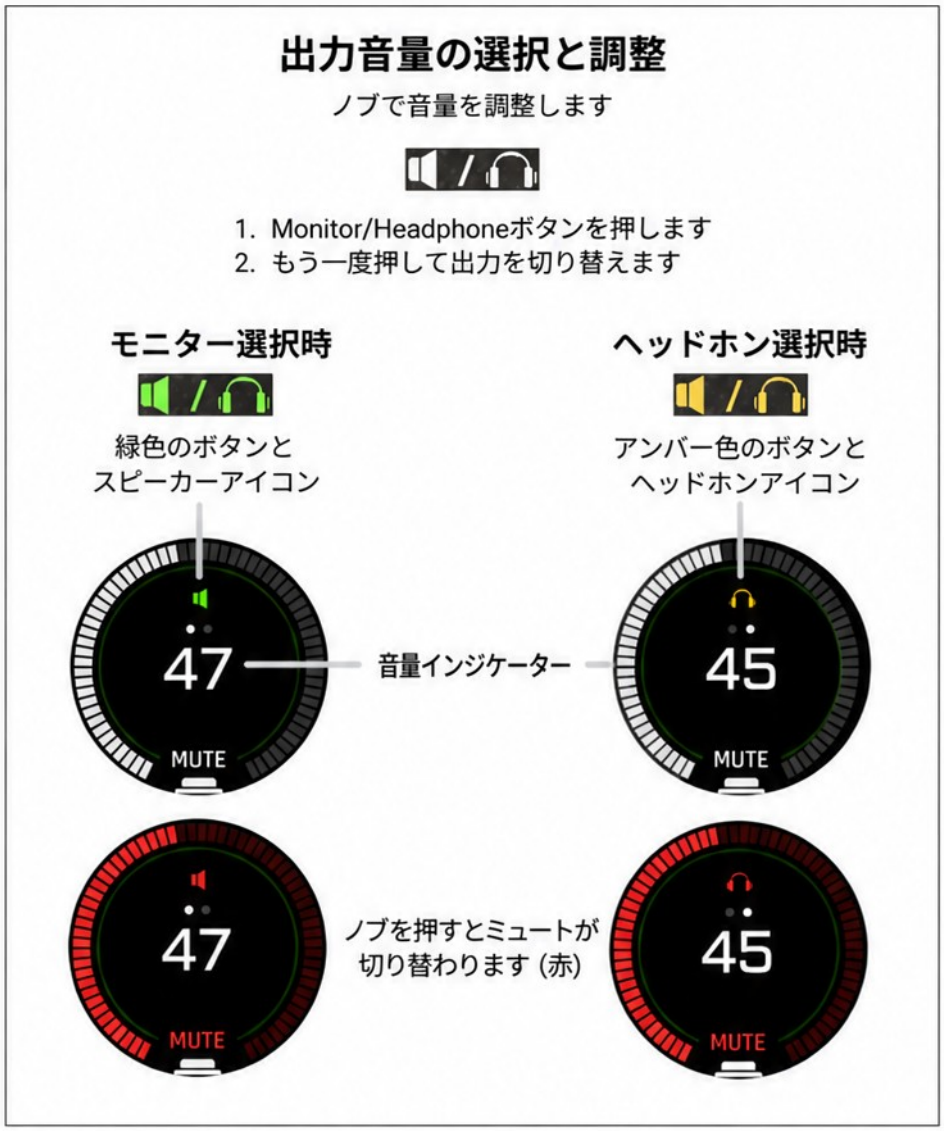
Voltのトップパネルには、10個のプッシュボタンと、プッシュ機能付きの大きなノブの2種類のコントロールがあります。

各ボタンには専用の機能があり、ラベルの色でアクティブな状態を示します。ノブは、MonitorsまたはHeadphonesがアクティブな場合は出力音量やミュートを調整し、プリアンプ入力が選択されている場合はゲインやチャンネルのリンクを調整します（その他の機能も含まれます）。ディスプレイには、現在の選択に応じた入力および出力情報が表示されます。

ヒント：コントロールは、Volt Gen 2、Volt Max、Volt 876ハードウェアのコンパニオンアプリであるUAD Consoleアプリでも調整できます。

出力音量の選択と調整

Voltのモニターおよびヘッドフォンの出力音量は、それぞれ独立して調整できます。出力音量を調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、次にノブで音量を調整します。

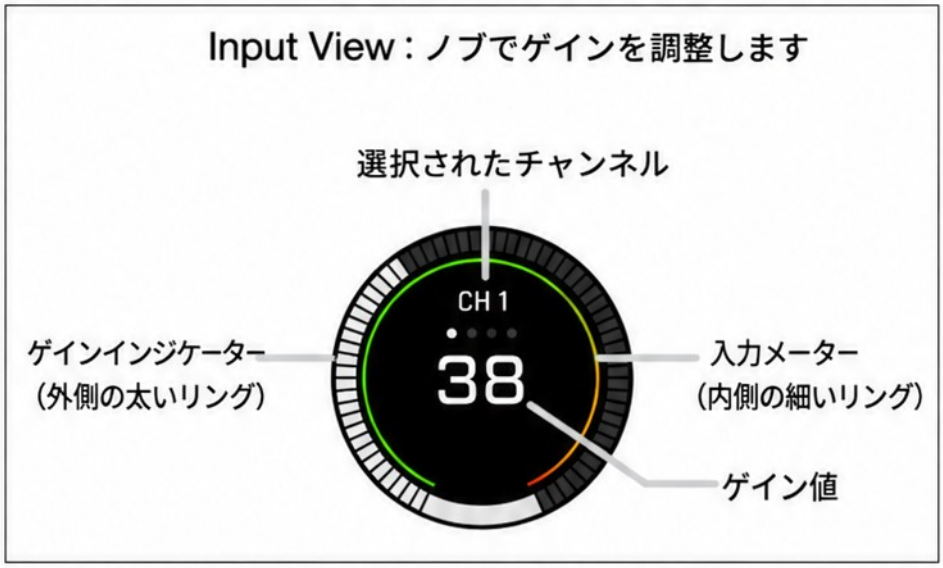


モニターモードの概要

- モニター出力とヘッドホン出力を切り替えるには、Monitor/Headphoneボタンを押します。次に、ノブを回して選択した出力の音量を調整します。
- 現在の選択状態は、ボタンラベルの色とディスプレイに表示されます。モニターが選択されている場合、ボタンラベルとスピーカーアイコンは緑色になります。ヘッドホンが選択されている場合、ボタンラベルとヘッドホンアイコンはアンバー色になります。
- 出力のミュートを切り替えるには、ノブを押します。ミュート時は、外側のボリュームリングが赤色になります。
- Headphone/Monitorモードがアクティブな場合、INPUT、DIM/TALK、ALT以外のすべてのボタンラベルが暗くなります。

入力の選択とプリアンプゲインの調整

Voltには、個別にコントロールできる複数の入力チャンネルがあります。チャンネルのプリアンプゲインを調整するには、まずINPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブを回してゲインを調整します。入力が選択されている間、各ボタンはその入力チャンネルに対して機能します。



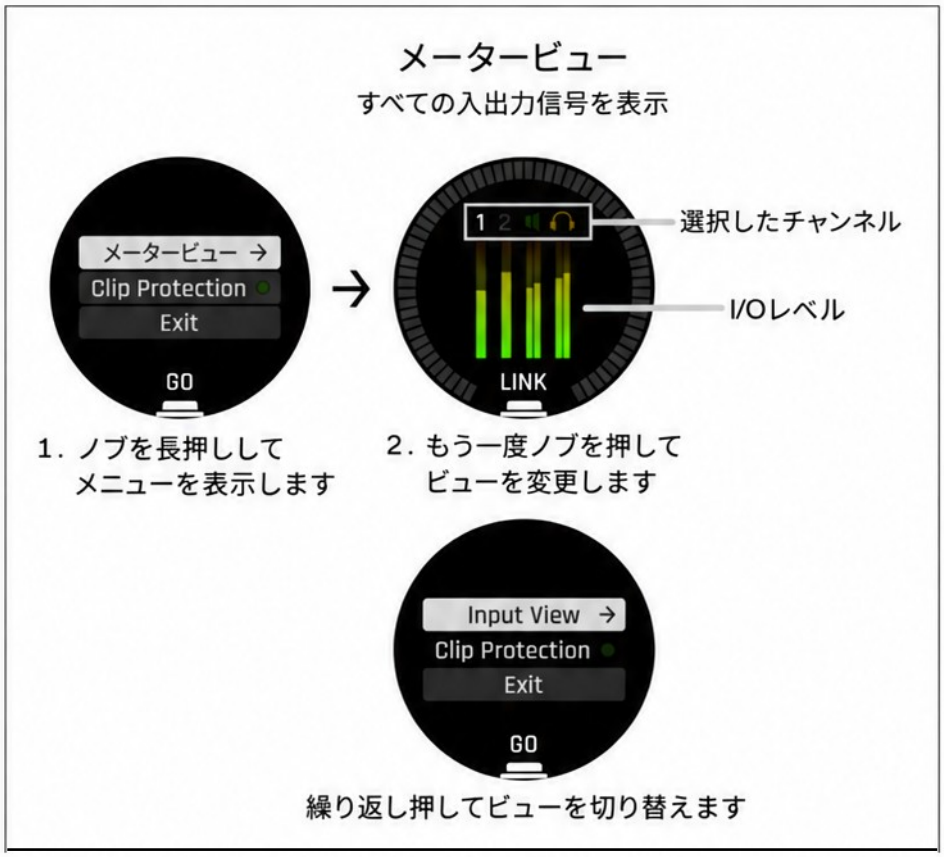
Input View

- ゲインを調整するには、ディスプレイにプリアンプのチャンネル番号が表示されるまでINPUTボタンを繰り返し押し、ノブを回します。
- 内側の細い緑色のリングは、チャンネルの入力信号レベルメーターです。入力信号がレッドゾーンでピークに達する場合は、プリアンプゲインを下げるか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを下げてください。
- プリアンプゲインを自動的に設定するには、AUTOボタンを押します。

Meter Viewの選択

Meter Viewでは、すべての入力と出力の信号レベルが同時に表示されます。Meter Viewのままでも、INPUTボタンで入力を切り替えたり、Monitor/Headphoneボタンで出力を切り替えたりすることで、チャンネルのコントロールや出力音量の調整が可能です。

現在選択中の入力または出力チャンネルはメーターの上部に点灯し、チャンネルのゲインまたは音量は外側のレベルリングで示されます。



メータービュー

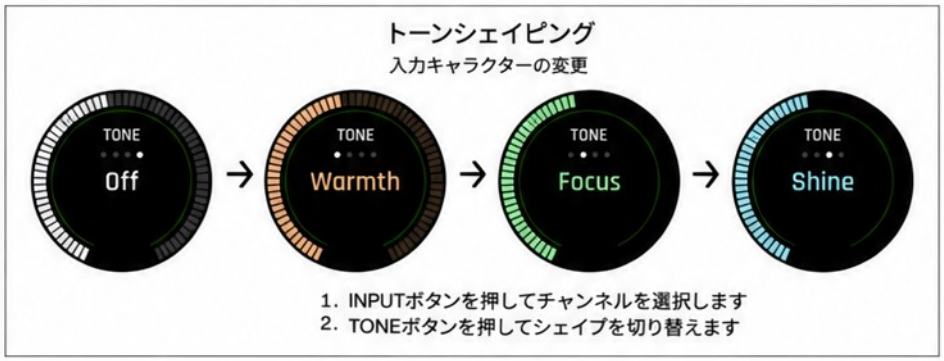
- メータービューに切り替えるには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Meter Viewがハイライトされた状態でノブを押します。
- メータービューを終了するには、ノブを長押ししてメニューを表示し、Input Viewがハイライトされた状態でノブを押します。

トーンの選択

すべてのVoltアナログ入力には、クラシックなアナログマイクプリアンプのサウンドを提供するTone Shaping機能が搭載されており、Warmth、Focus、Shineという3つのキャラクターモードを備えています。各モードには、アナログハードウェアに由来するEQカーブとハーモニックサチュレーションが含まれています。入力ゲインを上げると、ハーモニックサチュレーションが増加します。

利用可能なトーンを切り替えるには、INPUTボタンを押して目的のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。

ヒント： UAD Consoleでトーンを選択することもできます [UAD Consoleのトーンに関する記事へのリンク]。



トーンシェイピング

- ディスプレイの外周リングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定に応じて変化します。リングとボタンのラベルの色が白の場合、トーンシェイピングはオフになります。
- トーンリングとボタンの色は、選択している入力チャンネルに連動します。

以下の3種類のトーンを利用できます：

- **OFF（白）**：トーンシェイピングなし。
- **Warmth（アンバー）**：柔らかいトランジェントと滑らかさを備えた、ビンテージでサチュレーションの効いた真空管の輝き。Universal Audio / UA 610チューブプリアンプを彷彿とさせます。
- **Focus（緑）**：フォーカスと明瞭さを備えたパンチの効いたトランジェント。ドラム、ギター、ベースで好まれ、クラシックなアメリカ製ソリッドステート・コンソールを彷彿とさせます。
- **Shine（青）**：音楽的で豊か、かつシルキーなトップエンド。由緒ある英国製クラスAコンソールを彷彿とさせます。

Maxコンプレッションの適用

Maxコンプレッションを使用すると、手動で音量を調整することなくダイナミクスをコントロールし、パンチ、明瞭さ、バランスを加えることができます。Maxはすべてのアナログ入力で利用可能です。特定の用途向けにチューニングされた6種類のプリセットが用意されていますが、どのプリセットもあらゆるソースを強化できます。

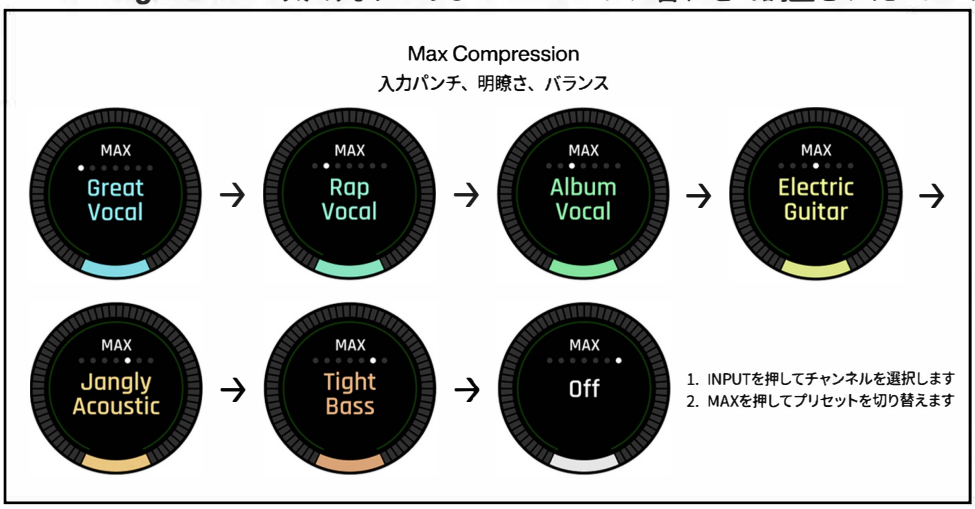
コンプレッションがアクティブな場合、スマートディスプレイにはチャンネルのリアルタイムなゲインリダクションメーターが表示されます。

- 利用できるMaxプリセットを切り替えるには、INPUTボタンを押してチャンネルを選択し、MAXボタンを繰り返し押します。
- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部の円弧の色は、現在のMaxプリセットに応じて変化します。
- UAD ConsoleでMaxプリセットを選択することも可能です。

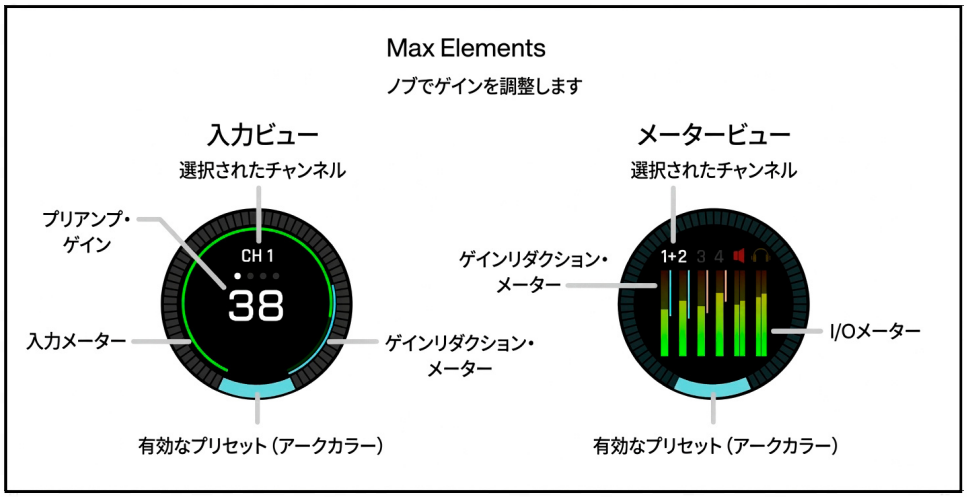
以下のMaxプリセットを利用できます：

- **Off**：コンプレッションオフ。
- **Great Vocal**：スローアタック、ファーストリリース、ミディアムレシオの1176コンプレッションにより、優れた多目的ボーカルサウンドを実現します。
- **Rap Vocal**：アグレッシブなフォーカスを実現するリミッター設定を備えたLA-2Aコンプレッション。

- **Album Vocal**：ボーカル全体をスムーズにするための、遅いアタック、非常に速いリリース、低レシオの1176コンプレッションです。
- **Electric Guitar**：パンチがありながらもスムーズなエレキギターのための、中程度のアタック、非常に速いリリース、低レシオの1176コンプレッションです。
- **Jangly Acoustic**：スムーズで温かみのあるアコースティックギターのためのLA-2Aコンプレッションです。
- **Tight Bass**：太く丸みのあるベーストーンに合わせて調整されたVCAコンプレッションです。



Maxプリセット



Auto-Gainの使用

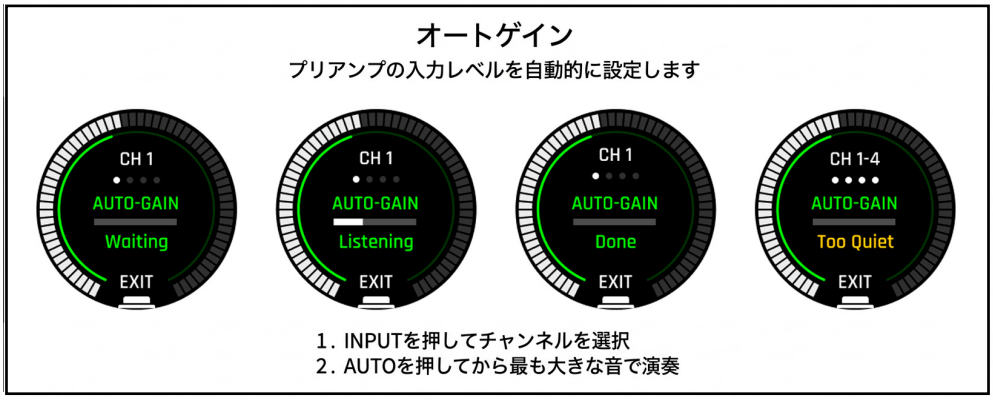
Auto-Gainは、入力信号に対して最適なプリアンプゲインを自動的に設定します。これにより時間を節約し、手動で調整することなく適切なレベルで確実に録音できるようになります。

単一のプリアンプチャンネル、またはリンクされたチャンネルのゲインを自動的に設定するには：

1. INPUTボタンを押して、目的のチャンネルを選択します。
2. AUTOボタンを押します。ディスプレイにWaitingと表示されます。

3. 最も大きな音量で10秒以上演奏するか歌います。ディスプレイにListeningとプログレスバーが表示されます。

Auto-Gainが完了する（10秒後）と、レベルが設定され、ディスプレイは元の画面に戻ります。



Auto-Gainの表示状態

Auto-Gainのヒント

- すべてのプリアンプで同時にAuto-Gainを使用するには、AUTOボタンを長押しします。
- 入力信号のレベルが不十分な場合、ディスプレイにToo Quietと表示されます。この場合は、より大きな音量で歌うか演奏するか、入力に接続されているデバイスの出力レベルを上げてください。
- UAD ConsoleからAuto-Gainを開始し、関連する設定を調整することもできます。
- Auto-Gainは録音用にプリアンプのレベルを自動的に調整します。聴覚へのダメージを防ぐため、作業を進める前にモニターレベルが安全に設定されていることを確認してください。

ダイレクトモニタリングの使用

ダイレクトモニタリングでは、DAWを経由してモニタリングする代わりに、入力信号を直接モニターおよびヘッドホン出力に送ります。ダイレクトモニタリングを使用すると、遅延を感じることなく、リアルタイムでライブ入力を聴くことができます。ダイレクトモニタリングを使用しない場合、入力音はDAWのバッファによるレイテンシーの影響を受けます。

ダイレクトモニタリングの切り替え

- 選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。
- すべてのチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを長押しします。

チャンネルのDirectがオンの場合、DIRECTボタンのラベルは緑色になり、オフの場合は白色になります。機能を切り替える際、ディスプレイにもその状態が短時間表示されます。



Directのオフとオン

ダイレクトモニタリングを使用する理由

ダイレクトモニタリング（ハードウェアモニタリングとも呼ばれます）を使用すると、DAWを完全にバイパスし、Tone ShapingとMaxコンプレッサーが適用された入力信号をVoltハードウェアから直接、レイテンシーなしで聴くことができます。

Directがオフの状態で、DAWを通して入力信号をモニタリング（ソフトウェアモニタリング）する場合、その信号はVoltのモニター出力やヘッドフォン出力から出力される前にソフトウェアを経由します。この信号はソフトウェアのI/Oバッファーを使用するためレイテンシーが発生し、バッファーサイズが大きくなるにつれて遅延量も増加します。

DAWのプラグイン処理を通さずに、VoltのTone ShapingとMaxコンプレッサーを適用してボーカルや楽器を録音したい場合など、DAW経由でモニタリングしたくないソースを録音する際には、ダイレクトモニタリングを使用してください。

ダイレクトモニタリングに関する注意事項

- Directの音声には、入力のTone ShapingとMaxコンプレッサーの効果が含まれます（チャンネルで有効になっている場合）。
- Directがオンの場合、入力音が薄くなったり「位相がずれた」ように聞こえたりする原因となる信号の二重化を防ぐため、DAWのソフトウェアモニタリング機能を無効にしてください。
- Directがオフの場合、DAWでのバッファリングや信号処理の結果として、入力音が聞こえるまでにレイテンシー（わずかな遅延）が発生する場合があります。
- DAW上のプラグインで処理された入力信号を聴きたい場合は、Directをオフのままにしてください。
- なお、入力信号はDirectのオン／オフ状態にかかわらず、録音のために常にDAWへ送信されます。

UAD ConsoleでのDirectの使用

- UAD Consoleでは、Directがオンのときにインプットのミュートが解除され、Directがオフのときにミュートされます。
- UAD Consoleで1つ以上のチャンネルがソロになっている場合、他のチャンネルのダイレクトモニタリング信号は聞こえません。
- Directがオンの場合、UAD Consoleでインプットレベル、パンニング、およびCueセンドをコントロールできます。詳細については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。

インプットチャンネルのリンク

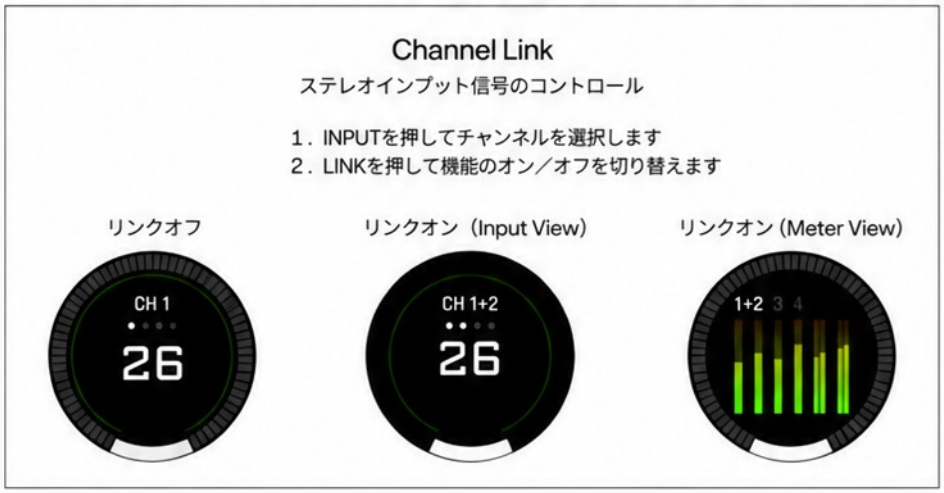
ステレオで使用するために、インプットチャンネルをリンクできます。インプットがリンクされると、チャンネル設定は両方のインプットに適用され、チャンネルペアはモニターバスで左右にパンされます。もう一度押すとリンクが解除されます。

隣接するチャンネルのリンクとリンク解除

- LINKボタンを押します。
- チャンネルのリンクを詳除するには、もう一度LINKボタンを押します。

リンクに関する注意事項

- 隣接するチャンネルペアのみをリンクできます。
- 異なるインプットタイプ（例：1/4"とXLR）のチャンネルをリンクすることはできません。互換性のないチャンネルをリンクしようとすると、INPUTラベルが赤く点滅し、ディスプレイにInput Mismatchと表示されます。
- リンクされたペアの片方のチャンネルの接続を外した場合でも、本体またはUAD Consoleでチャンネルのリンクを解除するか、異なるタイプのインプットを接続するまで、リンクは保持されます。



Talkbackの使用

DIM/TALKボタンは、内蔵トークバックマイクをアクティブにし、モニター出力信号のレベルを20 dB下げます（ディム）。DIM/TALK機能は通常、キューを通じてパフォーマーとコミュニケーションをとるために使用します。

- トークバックをラッチ（固定）または解除するには、DIM/TALKボタンを短く押して離します。
- トークバックとディムを一時的にアクティブにし、ボタンを離したときに非アクティブにするには、ボタンを0.5秒以上長押しします。
- この機能がアクティブな場合、DIM/TALKボタンは緑色に点灯します。

代替モニタースピーカーの使用

ALT機能を使用すると、2組目のスピーカーでステレオミックスをモニターできます。

- 左チャンネルの代替スピーカーをLine Out 3に、右チャンネルの代替スピーカーをLine Out 4に接続します。
- 機能を切り替えるには、ALTボタンを押します。ALTボタンのラベルが緑色に点灯しているとき、この機能はアクティブな状態です。

重要：ALT機能によって既存のLine Out 3-4の割り当てが誤って上書きされるのを防ぐため、この機能を使用する前に、まずALT機能を有効にする必要があります。ALTボタンが点灯していない場合、この機能はまだ有効になっていません。

ALT機能の有効化／無効化

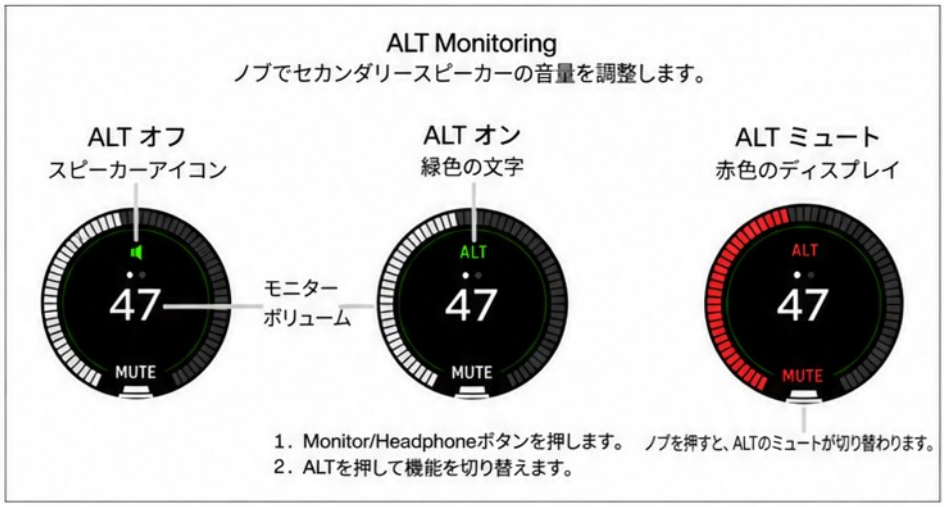
- ボタン消灯時にALT機能を有効にする：ボタンのラベルが点滅するまで（約2秒間）、ALTボタンを長押しします。
- ボタン点灯時にALT機能を無効にする：ボタンのラベルが点滅するまで（約2秒間）、ALTボタンを長押しします。

ヒント：UAD Consoleの設定でも、この機能を有効／無効にすることができます。

ALTモードがアクティブな場合

- ALTボタンのラベルが緑色に点灯します。
- プライマリモニター出力はミュートされます。
- メインステレオミックスはLine Out 3-4にルーティングされます。
- それまでLine Out 3-4にルーティングされていた信号は聞こえなくなります。

注意：ALTモードの切り替えによって上書きされたLine Out 3-4への出力割り当ては、別の出力先に再割り当てする必要があります。

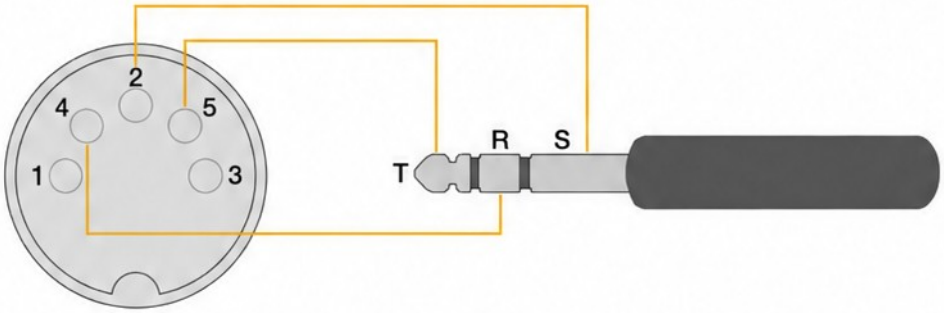


MIDIの使用

MIDI Type A 1/8インチ（3.5 mm）コネクターを使用して、MIDIデバイスを接続します。

MIDI接続図

MIDI Type Aは（MIDI Type Bとは異なり）特定の配線を使用します。この図は、Voltに必要なMIDI Type Aの接続を示しています。



MIDI Type A 5ピンDIN - TRS配線図

MIDIデバイスの使用

macOSでは、MIDIデバイスはオペレーティングシステムに自動的に認識され、Voltはそのデバイス名で識別されます。Windowsでは、UA Connect経由でVoltドライバーをインストールする必要があります。

オプティカル入力の使用

外部機器のデジタルオーディオ出力ポートを、このTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイスまたは S/PDIFプロトコルを使用します。標準のTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

アナログ入力とは異なり、デジタル入力にはチャンネルコントロールがありません。デジタル入力の信号レベルは、Voltに接続されたデジタル機器の出力レベルを調整することで設定します。デジタル入力の信号レベルはUAD Consoleで確認できます。

注意：Voltは、ADATまたはS/PDIFフォーマットのデジタルオーディオをサポートしています。UAD ConsoleのSettingsでデジタルオーディオフォーマットを選択できます。

より高いサンプルレートでは、高解像度のADAT転送を維持するために業界標準のS/MUXが使用されます。サポートされているサンプルレートは以下のとおりです：

ADAT入力チャンネル

- 44.1/48 kHz：8チャンネル
- 88.2/96 kHz：4チャンネル
- 176.4/192 kHz：2チャンネル

S/PDIF入力チャンネル

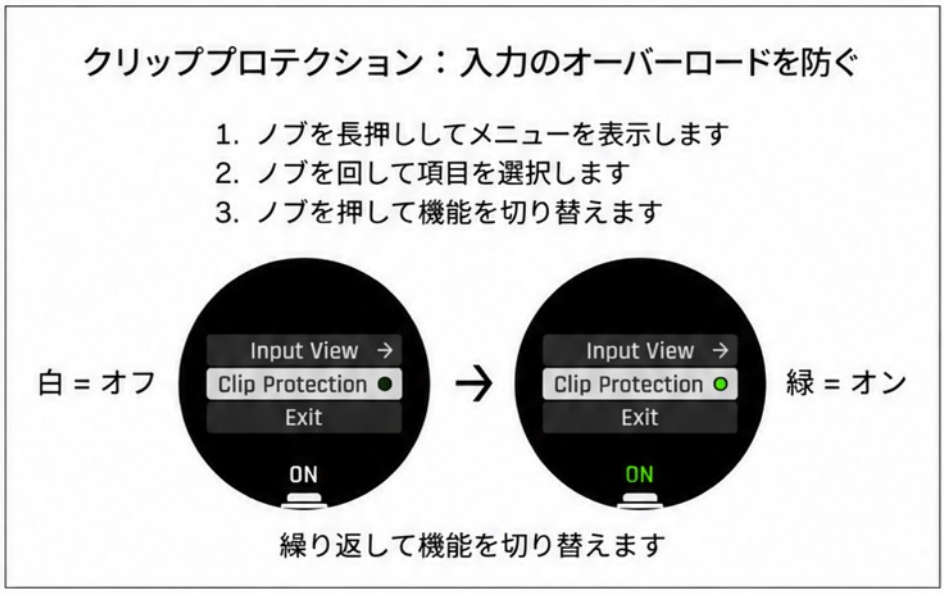
- サポートされているすべてのサンプルレートで2チャンネル

クリッププロテクションによるオーディオクリッピングの防止

クリッププロテクションは、プリアンプへの予期せぬ大音量信号によって、録音時に過大入力によるクリッピング歪みが生じるのを防ぎます。クリッププロテクションはデフォルトでオンになっていますが、Voltのメニュー、またはUAD Consoleの設定で無効にすることができます。

クリッププロテクションのオン／オフを切り替える

1. メニューが表示されるまでノブを長押しします。
2. ノブを回してClip Protectionメニュー項目をハイライトし、ノブを押して状態を切り替えます。
3. 有効になると、メニュー項目の横に緑色の点が表示され、ONが緑色に点灯します。



クリッププロテクションのメニュー項目

クリッププロテクションの仕組み

Volt Maxのクリッププロテクションは、信号がアナログ／デジタルコンバーターに到達する前にハードウェアリミッターを適用し、プリアンプ入力での信号のクリッピングを防ぎます。

Voltの接続について

最良の結果を得るため、以下のケーブルを使用してください：

- ギターやベースをフロントパネルのインストゥルメント入力に接続するための、1/4" (6.35 mm) TS (tip-sleeve) ケーブル
- マイクをリアパネルのコンボジャック入力に接続するための、XLRケーブル
- キーボードやその他のラインレベルのオーディオソースをリアパネルのコンボジャック入力に接続するための、1/4" TRS (tip-ring-sleeve) ケーブル
- ステレオモニタースピーカーやその他のオーディオ機器をリアパネルのモニター出力およびライン出力に接続するための、1/4" TRSケーブル
- 1つまたは2つのステレオヘッドフォンをフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続するための、1/4"および1/8" TRSヘッドフォンプラグ

バランス接続について

Voltのモニター／ライン出力、および背面の1/4"コンボ入力ジャックは、バランス対応機器を接続した場合にバランス接続として機能します。最良の結果を得るため、TRS（バランス）オーディオケーブルを使用してください。バランス対応機器は3芯配線を採用しており、干渉や電気的ノイズを低減するため、長いケーブルを使用した場合でも優れたオーディオ品質を提供します。TS（アンバランス）接続は、電気的な干渉ノイズが問題にならない短い出力ケーブルでの接続に適しています。

Volt 4P Max ハードウェアの説明

本セクションでは、すべてのハードウェアコントロール、接続端子、およびインジケーターについて説明します。

Volt 4P Max フロントパネル



Volt 4P Max フロントパネル

(1) インストゥルメント入力1-2

ギター、ベース、その他のハイインピーダンス楽器をここに接続します。接続すると、このインストゥルメントジャックがリアパネルのXLR/TRS 1-2コンボジャックよりも優先されます。

ヒント：楽器の接続には、標準的な1/4" TSインストゥルメントケーブルを使用してください。

(2) ヘッドフォン出力ジャック

これらの出力にはステレオヘッドフォンを接続します。1/4"（6.35 mm）と1/8"（3.5 mm）のTRSヘッドフォンプラグに対応する、2つのヘッドフォンジャックが用意されています。どちらのヘッドフォンジャックからも同じ信号が出力されます。

CUEミックスをヘッドフォン出力にルーティングできます。詳細については、UAD Consoleマニュアルを参照してください。

Volt 4P Max トップパネル



Volt 4P Max トップパネル

(3) トークバックマイク

内蔵トークバックマイクはここに配置されています。トークバックを使用すると、他のすべてのオーディオの音量を下げ（ディム）、演奏者とコミュニケーションを取ることができます。トークバックはDIM /TALKボタンでオンにできます。詳細については「トークバックの使用」を参照してください。

注意： トークバックマイクは非常にデリケートです。機器の損傷を防ぐため、マイクの穴に物を入れたり、圧縮空気を吹き付けたり、掃除機を使用したりしないでください。

(4) スマートディスプレイ

円形のディスプレイには、選択した入力チャンネルまたは出力に関する情報が表示されます。

詳細については、「Voltの使用」を参照してください。

(5) TONEボタン

選択した入力チャンネルに、サチュレーションとハーモニクスを加えるアナログスタイルのTone Shapingを適用します。

- 利用可能なトーンを切り替えるには、INPUTボタンを押して任意のチャンネルを選択し、TONEボタンを繰り返し押します。
- スマートディスプレイの外側のリングとTONEボタンのラベルの色は、現在の設定に応じて変化します。リングとボタンのラベルが白色の場合、Tone Shapingはオフになっています。
- トーンリングとボタンの色は、入力チャンネルの選択に連動します。
- トーンはUAD Consoleでも選択できます。

詳細については、「トーンの選択」を参照してください。

(6) MAXボタン

選択した入力チャンネルで利用可能なMaxコンプレッサーのプリセットを切り替えます。繰り返し押すことで、6つすべてのコンプレッサー設定とオフが順番に切り替わります。

- MAXボタンのラベルとディスプレイ下部にある円弧の色は、現在のMaxプリセットに対応しています。
- Maxコンプレッションは、UAD Consoleでも選択できます。

詳細については、Maxコンプレッションの適用を参照してください。

(7) 48Vボタン

選択したリアパネルのXLR入力に接続されたコンデンサーマイクに+48Vファンタム電源を供給します。ファンタム電源がオンになるまでの間はラベルが赤色に点滅し、アクティブ時には赤色に、非アクティブ時には白色に点灯します。

選択したチャンネルに1/4インチプラグが接続されている場合、ファンタム電源は無効になります(ラベルは消灯します)。

注意：マイクを接続または取り外す前に、ファンタム電源をオフにしてください。ファンタム電源により、一部のリボンマイクが損傷する恐れがあります。

(8) LINKボタン

ステレオ制作用に入力チャンネルのペアをリンクさせるには、このボタンを押します。チャンネルがリンクされると、チャンネル設定は両方の入力に適用され、チャンネルペアはモニターバス内で左右にパンニングされます。もう一度押すと、リンクが解除されます。

(9) INPUTボタン

画面に表示され、他のコントロールで調整を行うアクティブな入力チャンネルを選択します。繰り返し押すと入力が切り替わります。長押しすると、ステレオ制作用にチャンネルをリンク、またはリンクを解除します。

詳細については、入力の選択とプリアンプゲインの調整を参照してください。

(10) AUTOボタン

選択したチャンネルのAuto-Gainレベル検出を開始します。長押しすると、すべての入力に対して同時にAuto-Gainを設定します。詳細については、Auto-Gainの使用を参照してください。

ヒント：ギターおよびベースのモデリングプラグインに適切なレベルを設定するには、Hi-Zインストゥルメント入力に接続された楽器のゲインを最小（0）に設定します。最適な結果を得るために、Hi-Zインストゥルメント入力に接続された楽器のレベル設定にはAuto-Gainを使用しないでください。

(11) DIRECTボタン

選択したチャンネルのダイレクトモニタリングをオン／オフするには、DIRECTボタンを押します。ダイレクトモニタリングをオンにすると、ToneやMaxの処理を含む、モニタリング対象の入力オーディオが直接出力に送られます。また、ダイレクトモニタリングはUAD Console内の入力チャンネルのミュートも解除します。

詳細については、「ダイレクトモニタリングの使用」を参照してください。

(12) DIM/TALKボタン

押すと内蔵トークバックマイクがオンになり、同時にモニター出力の音量が20 dB下がります。ボタンを押してすぐに離すとその機能がラッチ（固定）され、長押しするとモーメンタリー（一時的）動作になります。

ヒント：モーメンタリーモード（長押し）では、ボタンを押している間だけトークバックが有効になるため、誤ってトークバックをオンにしたままにならず、手早くコミュニケーションを取るのに便利です。

(13) ALTボタン

ALTボタンは、メインステレオミックスをライン出力3-4にルーティングし、サブのスピーカーペアによる代替モニタリングを可能にします。ALTモードを切り替えるには、ALTボタンを押します。

重要：ALT機能によって既存のライン出力3-4の割り当てが誤って上書きされるのを防ぐため、この機能を使用する前に、まずALT機能を有効にする必要があります。ALTボタンが点灯していない場合、この機能はまだ有効になっていません。

詳細については、「代替モニタースピーカーの使用」を参照してください。

(14) Monitor/Headphoneボタン

エンコーダーノブとディスプレイのコントロール対象を選択するために押します。このボタンを繰り返し押すと、モニター出力とヘッドフォン出力が切り替わります。Monitorが選択されている場合はボタンのラベルが緑色に点灯し、Headphonesが選択されている場合はアンバーに点灯します。

詳細については、「出力音量の選択と調整」を参照してください。

エンコーダーノブとディスプレイのフォーカスをモニター出力に切り替えるために押します。このボタンを繰り返し押すと、モニター出力とヘッドフォン出力が切り替わります。Monitorが選択されている場合はLEDが緑色に点灯し、Headphonesが選択されている場合はアンバーに点灯します。

(15) エンコーダーノブ

このノブは、現在選択されている機能に応じてさまざまな設定を調整するための、デュアルファンクション（回転およびプッシュボタン）コントロールです。

ノブを回して以下を調整します：

- プリアンプチャンネルが選択されている場合の入力ゲイン
- モニター出力が選択されている場合のモニター音量
- ヘッドフォン出力が選択されている場合のヘッドフォン音量

ライン入力が選択されている場合、このノブは無効になります。

ヒント：ノブをゆっくり回すと微調整ができ、速く回すと素早く調整できます。

ノブを押して、以下の操作を行います：

- Monitorが選択されている場合、モニター出力をミュートします
- Headphoneが選択されている場合、ヘッドフォン出力をミュートします

ノブを長押しして、以下の操作を行います：

- Input/Meter Viewとクリッププロテクションメニューを表示します
- メニューの表示中にノブを回して機能を選択します
- ノブを押して機能のオン／オフを切り替えるか、メニューを終了します

Volt 4P Max リアパネル



代替テキスト

(16) XLR/TRSコンボ入力 1-4

4つのXLR/1/4"コンボジャックは、XLRまたは1/4" TS/TRSプラグに対応しています。XLRおよび1/4"コンボジャック入力では、Voltプリアンプ、Tone Shaping、およびMaxコンプレッションを使用します。48Vファンタム電源はXLRジャックにのみ適用されます。

- XLRケーブルでマイクを接続します
- 1/4" TRSまたはTSケーブルでキーボードやその他のオーディオ機器を接続します
- INPUTボタンでチャンネルを選択し、ノブを回してコンボ入力のプリアンプゲインを調整します

注意：該当するチャンネルのフロントインストゥルメントジャックにケーブルが接続されている場合、ファンタム電源は無効になります。

(17) モニターL/R出力

ステレオスピーカーシステムをモニター出力に接続します。1/4" TSまたはTRSケーブルを使用して、左スピーカーをMON OUT 1/Lに、右スピーカーをMON OUT 2/Rに接続します。

注意：モニター出力からは電源が供給されません。アクティブ（パワード）モニター、または別途アンプとパッシブスピーカーが必要です。

モニター出力の音量を調整するには、まずMonitor/Headphoneボタンで出力を選択し、ノブを回します。

(18) Line 3-4出力

これらのアサイン可能な出力を、1/4インチのTSまたはTRSケーブルを使用して、他のオーディオ機器のラインレベル入力に接続します。ライン出力は通常、別のモニタースピーカー、キュー出力用のヘッドホンアンプ、またはその他のオーディオ機器に使用されます。

(19) MIDI I/O

標準の1/8インチ（3.5 mm）TRS MIDI Type Aケーブルを使用して、MIDIデバイスをVoltに接続できます。デバイスのMIDI OUTをVoltのMIDI INに、デバイスのMIDI INをVoltのMIDI OUTに接続します。
詳細については、「MIDIの使用」を参照してください。

(20) HUBポート

他のUSBデバイスをこのUSB 2.0拡張ポートに接続します。たとえば、MIDIコントローラーやiLok USBをここに接続できます。また、ADAT拡張用にVolt 876をこのポートに接続することもできます。このポートは、ホストコンピューターまたはUSB電源への接続用ではありません。
USB HUBポートは、5VDC、最大0.5Aを供給します。出力電力が不足している場合は、付属の電源の接続が必要になる場合があります。

(21) HOSTポート

付属のUSB-Cケーブルまたは他のデータケーブルを使用して、HOSTポートをコンピューターのUSB 2.0（またはそれ以降）ポートに接続します。コンピューターのポートはUSB-CまたはUSB-Aのいずれかで、USB 2.0以上のデータケーブルであれば使用できます。iOSおよびiPadデバイスの場合、USB-Cケーブル（USB-Cポートを搭載したデバイス）またはApple Lightning - USBカメラアダプタ（Lightningポートを搭載したデバイス）を使用してVoltを接続します。コンピューターをこのポートに接続することで、Voltにバスパワーが供給されます。

(22) 5VDCポート

Voltが動作するのに十分なバスパワーをUSB HOSTポートから受け取れない場合は、このポートを適切な5VDCのUSB電源に接続してください。
注意：Voltを認識させるには、VoltのHOSTポートを使用してコンピューターに接続する必要があります。

(23) Optical入力

他の機器のデジタルオーディオ出力を、このTOSLINKオプティカル入力に接続します。

TOSLINKポートは、ADAT Lightpipeオプティカルインターフェイスまたは S/PDIF プロトコルを使用します。標準的なTOSLINKオプティカルケーブルを使用して、最大8チャンネルのADATオーディオ、または2チャンネルのS/PDIFオーディオを入力できます。

詳細は「オプティカル入力の使用」を参照してください。

(24) 電源スイッチ

このロッカースイッチを使用して、Voltの電源をオンにします。

Voltを工場出荷時の設定にリセットする

Voltをデフォルト値にリセットするには、以下の手順に従ってください。

1. Volt本体の電源をオフにします。
2. TONEボタンと48Vボタンを両方とも押したまま、本体の電源をオンにします。
3. すべてのボタンの上にあるバックライトテキストが4回点滅するのを待ち、ボタンを離します。

Volt 4P Max 仕様

注意：すべての仕様は予告なく変更される場合があります。

システム

入出力構成

- マイク／ラインプリアンプ入力：XLR/TRSコンボ x 4
- インストゥルメント入力：¼” TS x 2
- ライン出力：4（モニター出力を含む）
- モニター出力（MONまたはALTを選択可能）：ライン出力1-2または3-4
- ヘッドフォン出力：1/4”ステレオ x 1、1/8”ステレオ x 1
- USB（Type-Cコネクタ）：
    - USB 2.0ホストポート x 1（バスパワー対応）
    - USB 5VDC電源ポート x 1
    - USB ハブポート x 1
- MIDI：In、Out（3.5 mm Type A x 2）

A/D – D/A変換

- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- サンプルあたりのビット深度：32
- 同時A/D変換：4チャンネル

- 同時D/A変換：6チャンネル（4メイン、1ステレオヘッドフォン）

アナログI/O

マイク、ライン、インストゥルメント入力（ACカップリング）

- 使用可能なゲイン：60 dB
- Tone Shaping（チャンネルごとに選択可能）：Warmth、Focus、Shine
- Max Processing（チャンネルごとに選択可能）：Great Vocal、Rap Vocal、Album Vocal、Electric Guitar、Jangly Acoustic、Tight Bass

マイク入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- 全高調波歪み＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-110 dB（0.0003 %）
- 最大入力レベル：14 dBu
- 入力インピーダンス：2 kΩ
- ファンタム電源：+48V（チャンネルごとに切り替え可能）
- コネクタータイプ：XLRメス、2番ホット

インストゥルメント入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.02 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：116 dB
- 全高調波歪み＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：13 dBu
- 入力インピーダンス：1 MΩ
- コネクタータイプ：1/4インチ TSアンバランス

ライン入力

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：119 dB
- 全高調波歪み＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-108 dB（0.0004 %）
- 最大入力レベル：22 dBu
- 入力インピーダンス：10 kΩ
- コネクタータイプ：1/4インチ TRSバランスまたはTSアンバランス

モニター＆ライン出力（DCカップリング）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.05 dB
- ダイナミックレンジ（Aウェイト）：126 dB
- 全高調波歪み＋ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS）：-112 dB（0.0003 %）
- 最大出力レベル：20.2 dBu
- 出力インピーダンス：200 Ω

- コネクタータイプ：1/4" TRSバランス

ステレオヘッドフォン出力（DCカップルド）

- 周波数特性：20 Hz ～ 20 kHz、±0.08 dB
- ダイナミックレンジ（300 Ohms、Aウェイト）：116 dB
- THD + ノイズ（1 kHz @ -1 dBFS、300 Ohms）：-103 dB（0.0007 %）
- 最大出力（32 Ohms）：1チャンネルあたり45 mW
- 最大出力（300 Ohms）：1チャンネルあたり24 mW
- コネクタータイプ：1/4" TRSステレオ

デジタル入力

S/PDIF

- コネクタータイプ：オプティカルTOSLINK JIS F05（ADATと共有）
- フォーマット：IEC 958
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192

ADAT

- コネクタータイプ：オプティカルTOSLINK JIS F05（S/PDIFと共有）
- フォーマット：S/MUX対応ADAT Digital Lightpipe
- 対応サンプルレート（kHz）：44.1、48、88.2、96、176.4、192
- チャンネル割り当て（@ 44.1 kHz、48 kHz）：チャンネル1～8
- チャンネル割り当て（@ 88.2 kHz、96 kHz）：チャンネル1～4
- チャンネル割り当て（@ 176.4 kHz、192 kHz）：チャンネル1～2

同期ソース

- 内部、ADAT、S/PDIF

電気仕様

- DC入力コネクタータイプ：USB-C
- DC要件：5VDC
- 消費電力（@5VDC）：標準6.0 W、最大9.1 W

環境仕様

- 周囲温度範囲：32° ～ 104° F（0° ～ 40° C）

物理仕様

寸法

- シャーシ（ノブを含む）：幅 x 奥行 x 高さ 8.5 x 4.5 x 2.1 in (21,6 x 11,5 x 5,4 cm)
- 梱包箱：幅 x 奥行 x 高さ 10.4 x 5.7 x 4.7 in (26,4 x 14,6 x 12,0 cm)

重量

- 発送重量（箱および付属品を含む）：3.3 lbs (1.5 kg)
- 重量（本体のみ）：1.5 lbs (0.7 kg)

パッケージ内容

- Volt 4P Max USBオーディオインターフェース
- 1mのUSBケーブル（Type-C to Type-C）
- 外部電源（ACアダプターキット付き）
- 重要な安全上の指示
- エンドユーザー使用許諾契約書

注意事項



重要な安全上の指示

1. これらの安全上の指示および製品の取扱説明書をお読みください。
2. これらの安全上の指示および製品の取扱説明書は保管してください。製品を他者に譲渡する際は、必ずすべての指示書を同梱してください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての指示に従ってください。
5. 本機器を水の近くで使用しないでください。
6. 製品の清掃は、電源から取り外した状態でのみ行ってください。清掃には乾いた布のみを使用してください。
7. 換気口を塞がないでください。製造元の指示に従って設置してください。
8. ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ、または熱を発生するその他の機器（アンプを含む）などの熱源の近くに設置しないでください。
9. 製品は、電源ユニットに記載されているタイプの電源でのみ操作してください。
10. 電源コード、特にプラグ、コンセント、および機器との接続部分が踏まれたり挟まれたりしないように保護してください。
11. 製造元が指定した付属品／アクセサリーのみを使用してください。
12. 雷雨の際、または長期間使用しない場合は、本機器のプラグを抜いてください。
13. すべての修理は資格のあるサービス担当者に依頼してください。電源コードやプラグが破損した、液体をこぼした、機器内に異物が落下した、雨や湿気にさらされた、正常に動作しない、または機器を落とした場合など、機器が何らかの損傷を受けた場合には修理が必要です。

14. **警告：**火災や感電の危険を減らすため、本機を雨や湿気にさらさないでください。花瓶など液体の入った物を本機の上に置かないでください。
15. 本機をAC電源から完全に切断するには、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
16. 電源コードのプラグは、いつでも容易に手が届く状態にしておいてください。
17. 製品のケースを開けようとしないでください。お客様ご自身で分解された製品は、保証の対象外となります。
18. 電源を入れる前に、製品を周囲の温度に馴染ませてください。
19. **注意：**過大な信号レベルは聴覚やスピーカーに損傷を与える可能性があります。本機の電源を入れる前に、接続されているオーディオ機器の音量を下げてください。これにより、ハウリングを防ぐこともできます。
20. 使用目的：本製品は屋内での使用を目的として設計されています。本製品は商業目的で使用することができます。該当する取扱説明書に記載されていない用途での使用は、不適切な使用とみなされます。Universal Audioは、本製品およびその付属品／アクセサリーの不適切な使用または誤用から生じる損害について、一切の責任を負いません。本製品をご使用になる前に、各国の規制を遵守してください。

メーカー宣言

保証

本製品には限定保証が適用されます。保証の最新の条件については、uaudio.com/eula をご覧ください。



メンテナンス

- **注意：**感電の危険を減らすため、本体を開けないでください。
- 本製品には、ヒューズなどお客様がご自身で交換できる部品は含まれていません。本機は工場出荷時に内部でキャリブレーションされており、お客様ご自身で内部を調整することはできません。

修理サービス

ハードウェアに問題が発生した場合は、まずすべてのシステム設定、接続、および取扱説明書を確認してください。それでも解決しない場合は、テクニカルサポートチームにお問い合わせください。

修理サービスやUAカスタマーケアへのお問い合わせについては、help.uaudio.com をご覧ください。

廃棄に関する注意事項

以下の要件に準拠しています：

WEEE指令（2012/19/EU）



製品、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、および／またはパッケージに記載されている、バツ印の付いた車輪付きゴミ箱のマークは、これらの製品を通常の家庭ごみとして廃棄してはならず、耐用年数に達した際に分別廃棄しなければならないことを示しています。パッケージの廃棄については、お住まいの国で適用される廃棄物分別に関する法規制を遵守してください。

これらの製品のリサイクルに関する詳細情報は、お住まいの自治体または地域の収集場所にてご確認いただけます。廃電気電子機器、バッテリー／充電式バッテリー（該当する場合）、およびパッケージの分別収集は、再利用とリサイクルを促進し、製品に含まれる可能性のある有害物質が引き起こす悪影響を防ぐために実施されます。これにより、環境保護および公衆衛生に大きく貢献することができます。

適合宣言

FCC：本デバイスは、FCC規則のパート15に準拠しています。動作は以下の2つの条件を前提とします。(1) 本デバイスは有害な干渉を引き起こさないこと、および (2) 本デバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信したいかなる干渉も許容しなければならないこと。

CANADA：カナダのICES-003クラスBに準拠しています / Conforme au reglement Canadien NMB-003 Classe B。

CE：本デバイスはテストにより、欧州共同体（EC）電磁両立性指令2014/30/EUの制限に準拠していることが確認されています。

エンドユーザーライセンス契約

本ソフトウェアにおけるお客様の権利は、付属のエンドユーザーライセンス契約に準拠します。契約内容は www.uaudio.com/eula にてご確認いただけます。

著作権および商標

© 2026 ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc. All rights reserved worldwide.
「ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio」という名称、Universal Audio / UA「ダイヤモンド」ロゴ、および「Universal Audio / UA Volt」は、ユニバーサル・オーディオ / Universal Audio, Inc.の商標または登録商標です。ここに記載されているその他のすべての製品および商標は、それぞれの所有者に帰属します。

ASIOは、Steinberg Media Technologies GmbHの商標およびソフトウェアです。

免責事項

本マニュアルに記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。Universal Audio, Inc.は、本マニュアルに関して、商品性および特定目的への適合性の黙示の保証を含むがこれらに限定されない、いかなる種類の保証も行いません。Universal Audio, Inc.は、本書に含まれる誤り、または本資料の提供、性能、あるいは使用に関連する直接的、間接的、特別、付随的、または結果的な損害について、一切の責任を負わないものとします。